

会費納入のお願い

年会費 2,000円
①郵便振替口座番号
00140-8-549806
加入者 熊本県立天草高等学校
同窓会関東支部
連絡、問い合わせ先は
事務局へ
TEL.042-748-5553

あまたか News 関東

熊本県立天草高等学校
同窓会 関東支部

発行人 山田 清
編集人 編集委員会
印刷所 (株)アオキ・オフィスサービス
同窓会事務局 森 廣司
〒228-0828神奈川県相模原市麻溝台2838-201
TEL/FAX.042-748-5553 E-mail:mor3@nifty.com

ご挨拶

あまたか会関東支部会長
山田 清 (高十二回生)



学済々覺天草分覺として創設され昭和二十三年四月に学制改革により新制高等学校として昇格。翌年の昭和二十四年四月に男女共学実施に天草女子高等学校を併合して現在に至り明治・大正・昭和・平成と四つの年号を歩んでいる伝統と歴史のある学校です。

第十九回「あまたか会」関東支部総会が平成十六年二月二十一日ホテルグランドパレスにて開催されました。その総会で前会長小川矩正氏の後を受け選任されました。何卒宜しくお願い申し上げます。
母校の天草高校は明治二十九年四月熊本県立尋常中

自由な発想が会を発展させる

小川 矩正 (前会長 高五回生)



本年五月、我が国の小泉首相が二度目の北朝鮮訪問を終えて帰国し、拉致家族との会見場の模様はすでに皆様もご存知のことですが、成果に対しては苦言に近い発言を聞いて驚いた方々も多いと思います。一国の総理大臣に対して、あれ程まで強烈な言葉を吐ける国に

学年幹事促進委員会発足について

山本 忠義 (高十五回生)

後々も「あまたか会」の存在は必要とされましようし、貴重な親睦の集いへの要望は必ず続きます。
貴方達が「それ」を必要とする時に賑わいを続ける会である為にそのうちにとは言わず、今すぐにその問題点に取り組みとう学年幹事促進委員会を発足致します。
先々に先輩達の怠慢と責任と並べる愚行に至らぬように先輩達のご苦勞は尊しとしながら、若いからこそ出てくる提案を出して下さい。
七月三日に第一回親睦会開催。
他にも世後役に適する方々があれば、是非にご紹介下さい。

新役員紹介

Table with 4 columns: Position, Name, Position, Name. Lists new board members and their previous positions.

株式会社 長谷場商事
青山本店 社長
長谷場 亮祐 (高11回生 牛深出身)
「店内利用無料開放」学年幹事の皆さんへ!!
15:00~17:00の時間帯は同期の集まり等に自由にご利用ください。
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7
TEL 03-3420-7151 http://higonoya.com

銀座千福
代表取締役
黒瀬 日出男 (荻北町・富岡出身)
株式会社 銀座千福
〒104-0061 東京都中央区銀座7-15-5
TEL.03(3543)1029 FAX.03(3543)0209

【天草15市町ゴルフ対抗戦】
毎年6月6日(来年は月曜日)
◆男女を問わず迷わずご参加下さい。
◆素晴らしい大会になりました。
◆ご希望の方には今年の成績表をお届けします。
事務局 藤川 博祥
〒223-0056 横浜市港北区新吉田町5780-8
電話 045-592-5075 FAX 045-593-3018

第19回あまたか会関東支部総会

収支報告(平成16年2月21日)

収入の部	金額	支出の部	金額
1. 総会費	1,196,000	1. 宴会費(ホテル グランドパレス)	1,016,050
男性 89名 女性 34名		2. 福引用商品券	88,500
2. 御樽	198,000	3. 記念品代	10,000
18名		4. お花代	5,000
3. 物品寄贈社	2社	5. 講演者へのお礼	30,000
2社		6. アルバイト代(2名)	20,000
3. 景品寄贈	9名	7. お土産代	26,460
9名		8. 持込用お酒代	36,020
合計	1,394,000	合計	1,402,357
収入-支出=損益			-8,357

◆ 御樽

天草高等学校同窓会本部	20,000
〃 中京支部	20,000
井上 正規様	10,000
江崎 政継様	8,000
東京天草郷友会会長	鳥羽瀬正一様 10,000
副会長	黒田日出男様 10,000
副会長	柴田 治美様 10,000
関東御所浦会会長	鶴岡庄次郎様 10,000
東京天草町人会会長	竹森 要様 10,000
東京五和会会長	金子 正明様 10,000
関東龍ヶ岳会会長	福岡 健様 10,000
関東ふるさと苓北会	安藤 儀幸様 10,000
東京熊本県人会会長	内田 健三様 10,000
熊本県東京事務所	島田 万里様 10,000
熊本県市長会	安田 正則様 10,000
(有) いかりや	鶴岡 幸枝様 10,000
(有) 赤石	赤石 洋子様 10,000
(有) アローザ	中垣 秀相様 10,000
合計	198,000

◆ 物品寄贈

美少年酒造株式会社(お酒)	24本
スカイネットアジア航空(株)(往復半額)	2口

◆ 物品寄贈(景品)

小川 矩正様	5 回生(スタンドグラス)	2口
〃	他	3点
酒井 孝幸様	5 回生(ビール券)	2口
富山 訓全様	8 回生(真鯛)	2口
長谷場亮祐様	11回生(箱入焼酎)	2口
山田 清様	12回生(ボンカン)	2口
山本 忠義様	15回生(ビール券)	2口
坂本 禎子様	16回生(ビール券)	2口
中嶋昌加洲様	17回生(高級パスタオル)	2口
坂本 秀明様	25回生(江戸切子)	1口
		20口

あまたか会もエントリリし参加いたしますので、皆様のお申し込みをお願い致します。

本年は十周年記念大会になります。エントリリ後大会本部より詳細が入り次第、参加者の方々にご案内申し上げます。

参加申し込み先(電話かファックスにて)

あまたか会関東支部事務局
森 廣司
電話・ファックス
〇四二・七四八・五五三三

火の国ゴルフ大会のお知らせ

熊本県(火の国)の高校同窓会で学校別対抗のゴルフ大会(今年の出場枠二百名)が毎年十月の第一水曜日に実施されています。

一記

期日 十月六日(水曜日)
場所 千葉カントリークラブ(川間コース)
千葉県野田市市中里三四七七
費用 二万円(プレー、食事、参加費)
締切日 平成十六年八月二十日

火の国ゴルフ大会のお知らせ



同協会の信徒は七十戸二百三十人余り。建築士の見積もりによると、補修には約三千七百万円かかるという。信徒代表の山下富士夫さん(七四)は「千五百万円は信徒の寄付で賄うつもりだが、高齢で年金暮らしの人も多く厳しい。残りは外部に頼るしかない」と援助を呼び掛けている。

0969(22)2243、または同教会0969(79)0015。

(H04・13熊本日々新聞掲載より引用、金子和生(高十六回生)の情報提供による)

四回生(四天王)の友三角商治君を追悼して...

廣田 和史(高四回生)

「また会おうな...」昨年十月、古稀同窓会だった。そして彼が三月、急に旅立ってしまった。

思えば五十余年になる。「カライモズ」なる草野球を結成し休みには楽しんだものだが、費用を負担した覚えがない。とにかく彼は生まれてからのリーダーで一緒にいるだけで楽しかった。

大学(早稲田)を卒業して家業を継ぎ、且つ発展させ、天草経済同友会の会長として天草発展の為尽力し、一方、天草高校同窓会の副会長として堀田会長を長年に亘り補佐し同窓会の発展にお眼を下ささい。

三角君、どうぞ安らかに

キリシタン文化の象徴守れ!

崩壊危機の崎津天主堂

金子 和生(高十六回生)

天草観光協会(会長・安田公寛本渡市長)は十二日、天草キリシタン文化の象徴で老朽化から崩壊の危機に立たされている崎津教会天主堂(天草郡河浦町)を守り出すことを決めた。

同天主堂は、江戸時代に信徒弾圧の場だった庄屋敷跡に、長崎県を中心に多数の教会建築を手掛けた鉄川与助の設計で一九三五年(昭和十)に建設。一部鉄筋コンクリート木造で、ゴシック様式の尖塔(せんとう)を付けた鐘楼が特徴。二十年前近く前からひび割

天草観光協会は「崎津天主堂は全国的にも価値ある歴史遺産。今後、具体的な募金集めの方法を検討していきたい」と話している。

天草観光協会が全国から寄付を募る受け皿づくりを進めることを全会一致で決めた。

同協会の信徒は七十戸二百三十人余り。建築士の見積もりによると、補修には約三千七百万円かかるという。信徒代表の山下富士夫さん(七四)は「千五百万円は信徒の寄付で賄うつもりだが、高齢で年金暮らしの人も多く厳しい。残りは外部に頼るしかない」と援助を呼び掛けている。

同日、同郡 崎本町の町福祉館で開いた

天草観光協会総会で、河浦町観光協会が保存に向けて協力を要請する緊急動議を提出。「河浦だけでなく天草全体の観光資産として、天草観光協会が全国から寄付を募る受け皿づくりを進めることを全会一致で決めた。」

天草観光協会は「崎津天主堂は全国的にも価値ある歴史遺産。今後、具体的な募金集めの方法を検討していきたい」と話している。

天草観光協会が全国から寄付を募る受け皿づくりを進めることを全会一致で決めた。

天草観光協会 修繕費募金へ

外部に頼るしかない」と援助を呼び掛けている。

オンデマンド印刷って何? 気になるクオリティーは?

① どんな物に使えるの?

② どうすればいいの?

あなたの創造力をカタチにしたい!

MOなどのメディア(パソコンでも大丈夫)で入稿するだけでOK!

株式会社 **アオキオフィスサービス**

〒115-0051 東京都北区浮間5-1-4
TEL 03-3558-5060 FAX 03-3558-5154
E-mail:sales@aaos.co.jp
http://www.aaos.co.jp

天草の味 海老蒸餅 天草。なだ

創業80年 本舗 木原都堂

木原 恂子(高12回生 本渡出身)

〒863-0014 本渡市東浜町2-2
TEL 0969-22-2385
FAX 0969-22-2386

瀬高屋本店 合資会社 野田酒店

野田 堅三郎(高12回生 本渡出身)

〒863-0017(小売部)熊本県本渡市船之尾町9番4号
TEL 0969(22)2069

天草の酒・焼酎 ご用命は宅急便で即刻お届けします。

洛西壬生村

八木一族と新撰組

佐々木猛二(高五回生)



昨今京都の街を巡ればNHK大河ドラマにあやかるためか「新撰組」の幟旗が処々方々にみられる。

新撰組の舞台となつていゝ壬生村「八木家」の十二代宗主、八木淳氏の奥様は高五回生、八木伸子さん(旧姓松下)である。

平成十五年、年の瀬が近づくと頃八木家十二代宗主の淳氏がご逝去になった。

京都駅に着いて、先ず八木家に申問に向つた。近藤勇も寝泊りしたことがあると言ふ大広間の座敷に通して下さつた。あまり広いので寒く、暖房を入れて貰つて少し落ち着いた次第です。

新撰組の前に八木家について少し触れて見たいと思ひます。表題の本は十二代宗主の著書である。(発行者所(株)日本語学館)この本の扉を開くと「序文にかえて」と題する八木家当主八木淳氏の「ご挨拶が述べられる。その中で、当時の壬生村の状況は、残されて

いる資料や文獻、つい最近まで生存していた祖母をはじめとする長老達の口伝承などからすると趣が異なるので、ありのままの壬生村の姿や世相を残しておく

たいので、と記されてあります。

この著書に基づけば、新撰組騒動は第八代宗主八木延昌の時代のこと、江戸から浪士隊が二五二名壬生村に来た。壬生村では一般の村人より格が上で住人衆と呼ばれる有力者達も困り果てていたが対応策が無く、結局宗主延昌に一任されることになった。町奉行所から地方役を仰せつかった八木家は青蓮院や有栖川宮家とも深い関わりがあつた。有栖川宮は京都守護職、松平容保より身分が高い。

この時有栖川宮家筋から救いの手が差し伸べられた。この災厄を逃れるには、朝廷におすがりをする以外に手が無い。屯所に決められた壬生寺は律宗の別格本山で大和の唐招提寺に属する勅願寺である。その寺域に血飛沫をたつぷりと浴びた粗暴な輩を入れると朝廷の尊厳を著しく損なうことになり、有栖川宮家を通して帝は有栖川宮家には特別な高配をされていくとのこと。お蔭で壬生狂言の執行宗家で檀家総代でもあつた八木宗家にも浪士隊の常駐宿泊は出来なくなつた。

それからしばらくして上洛した浪人態の幕府軍兵の宿泊所は壬生寺から新徳寺に変更された。

浪士達が壬生に到着したその夜、清河八郎により尊王攘夷の建白書が採用され、

文久三年三月十三日、多くの者が横浜へ向つた。近藤勇ら残留組二十四名は、同日会津藩邸に出頭して城外夜回り警護役のご下命の嘆願書を出し、即日採用され身となった。そこで分家の八木邸と八木家の血をひく前川邸が新撰組の宿泊所として話題の舞台となる。

残留組の中に殿内、家里という相当教養の高い者がいて、芹沢や近藤等の一党を支配下に置くよう目論んでいたが、三月二十五日の夜、殿内義雄は四条大橋の上で斬殺された。見事な刀捌きでさらけ取つたこと事。

近藤等の狂暴さに恐怖感を抱いたのか、殿内、家里派の五名が伊勢参詣を口実に京を脱し、東帰した。この脱退を咎められた、家里は詰り腹を斬らされた。これが新撰組内部粛清の始まりとなる。

新撰組には金が無い。幕府からも会津藩からも何の手当ても音沙汰が無かつた。三度の食事は八木家や前川家の情けにすがるとしても、酒や、煙草、ちり紙を買う金にも事欠き、酒屋や雜貨店に付けが嵩み、押し売りならぬ押借りをする者までいるようになった。これが新撰組がゆすり、たかりの不逞浪士となつた始まりである。新撰組も新たに入隊者が増加して百名ぐらになつたので、指揮命令系統を確立するために、役職を決め、また隊の規約を定め、決めた。規約は五ヶ条で、これに反する者には切腹を申し

付けることであつた。

水戸藩からの脱藩者芹沢の行状が目にも余る程だつたので会津藩から内密の指令があつた。近藤等は芹沢清の前に、三人の局長の一人芹沢派の新見錦を昼間から遊女屋での放蕩に隊規違反として切腹させた。

八月一日に御所から長州勢を追放した働きを慰勞するとして会津藩から九月一八日の夜に島原の「角屋」へ新撰組全員にお招きがかり、会津藩の重役も出席して芹沢局長を持ち上げ、称賛して鱧腹酒を吞ませた。この夜が芹沢粛清のときとなつた。

旧楠浦村の立浦の集落は大平部落、西部部落、東部落、観音部落、四つの部落の集まりである。今回は西部部落の寄り合いで「司」さんが西部部落の区長に選ばれた。「司」は母方の妹の子で私より一つ上の従兄弟で本人に言わすれば「俺はしゅごんなかばつて、しょんなか」と。これは言い訳と照れ隠しで、満更でもなさそうである。

西部部落の姓は「立尾」が一軒で他は皆「大中」姓で全てが縁戚では無いが、それに近いものだらう。年の

天草の人々

大中 義広(高八回生)



順番ですれば「司」は四番の長老で誰はばかることなく俺が大将で、彼に逆らう人はいない、せからし「煩い」からそつとしておく。

彼は朝晩、孫を幼稚園に送り迎えが本業だが、合間に私の家と自分の所の百姓をしてる。

今回の帰郷で「司」と二人で百姓をしたかたのに、今度一つ握らせてくれない。田圃に出て畦を塗ろうと言つても未だ早いと言ふし、では耕運機で耕すと言へば、無理だと言ふ。子供の頃「司」と二人で手伝つた農作業の姿は何処にもなく天草を離れて五十年余の歳月はセピア色に変色した写真の中の風景で、百姓の弟子入りは大將でなく、こうべをさげ自分の足跡を残してもらいたいものである。

いつ頃、建てられたのか知らない神を祭る社はたてかえられ新しいが、子供の頃遊んだ三間二間のお堂は崩壊寸前で、梁も柱も朽ち果て基礎石に乗っている柱は一箇所もない。何度も部落の寄り合いで建替の相談がもたれたが賛否両論で何年も過ぎたと言ふ。鳥居の隣に自分で植えた松は大きくなり思い出が満載した場所である。祭事は四年に一度の事ならば日々の暮らしに困ることはない。しかし神社は代々先祖から継承されたもの、その時代の人々が次の世代に思い出と一緒に託すのが責任かとも思う。この度の神社再興は区長の初仕事、諸氏の意見を十分耳をかたむけ、何でも俺が大將でなく、こうべをさげた仏の区長として、後世に自分の足跡を残してもらいたいものである。

高25回生、鶴田一郎くんの展示会

についてのお知らせ

7月20日~26日 銀座プランタン

7月25日 サイン会

9月1~7日 東京駅 大丸

9月5日 サイン会

坂本 秀明(高25回生)

トバセ電気工業株式会社

代表取締役

鳥羽瀬 建男

(高10回生 城河原出身)

〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷7-117
電話 0489-64-9755

山本電設株式会社

代表取締役

山本 忠義

(高15回生 五和町城河原出身)

〒211-0016
川崎市中原区市ノ坪548番地
TEL 044-433-8000
FAX 044-433-3838

一般区域貨物*自動車運送事業
七二東陸自二貨二第六六九号
引越・梱包も承ります。

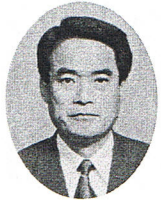
(運)東京運輸株式会社

代表取締役 榊山 輝雄
(天草町福連木出身)

本社 東京都板橋区桜川12丁目15番18号
TEL 03(3931)7004~6番
営業所 夜間専用(3935)7577番
FAX 03(3931)7512
東京都板橋桜川12丁目13番11号
TEL 03(3934)2371
茨城営業所 茨城県猿島郡総和町大字女沼字向原605-2
TEL 0280(93)0004

啓明寮

橋川 順一 (高二十回生)



第19回「関東あまたか会」

初参加して、36年ぶりに寮生と再会、そしてその縁で3年前から横浜に住いの、人寮時の同室先輩との劇的な再会を果たすことができました。早速二人でアルバムを見ながら、天草弁で寮での思い出とお互いのその後の40年をつまみに、焼酎を飲み交わしました。

昭和40年4月入学と同時に寮に入寮しました。当時の寮は学校の敷地の一角にあり、プール側に木造2階建ての南寮、弓道場側に平屋の北寮、グラウンド側は廊下でその向かいが食堂と風呂場があり、四角に囲まれた中庭に桜の木が何本かあった様に記憶しています。その全景は古いアルバムの中で当時の航空写真に、見つめることができました。

寮の一日は、当番による「起床」で始まり、1年生を中心に部屋・廊下・窓ガラス等の清掃、終わり次第廊下に一列に並び朝礼・点呼と続き、全員が食堂に揃って朝食となります。学校が終われば、朝と同じ掃除です。そして1週間に一度は押入の中も含めての大掃除と、とにかく廊下も部屋も塵一つ無かったと記憶しています。起床から就寝までのスケジュールが細かく決められ、さらに寮生相互、先輩に対する挨拶もこのほか厳しく徹底されていきました。

そんな厳しい反面、先輩はたよりがいのある、また面倒の良い兄貴の様な存在でもありました。なにか事あれば、その団結力といったらまさに「寝食を共にした」総勢70余名の強者の集まりでした。また帰省土産は何よりも楽しみに、おにぎりが主だったと思いますが、部屋の両隣全員で馳走になりました。

その後私は夜間の大学へと進み、昼間は仕事、夜は学校、授業が終わる次第クラブ活動と、厳しいスケジュールでしたが、寮での節制が糧となり、3年の秋主将として参加した「西日本空手道選手権大会」で個人・団体での準優勝を手中に収めることが出来ました。

寮の一日は、当番による「起床」で始まり、1年生を中心に部屋・廊下・窓ガラス等の清掃、終わり次第廊下に一列に並び朝礼・点呼と続き、全員が食堂に揃って朝食となります。学校が終われば、朝と同じ掃除です。そして1週間に一度は押入の中も含めての大掃除と、とにかく廊下も部屋も塵一つ無かったと記憶しています。起床から就寝までのスケジュールが細かく決められ、さらに寮生相互、先輩に対する挨拶もこのほか厳しく徹底されていきました。

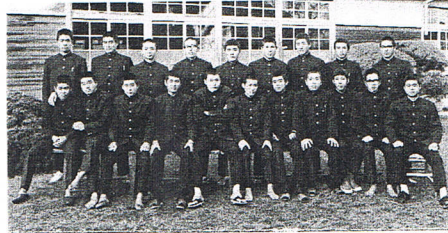
- 川柳(啓明寮)
- 天高に 啓明寮 その勇姿 (古タヌキ)
 - 啓明に 礼節学び 今があり (山本山)
 - 桜花 寮の中庭 友の顔 (横浜モッコス)
 - 啓明の 心ぞ今は 我が指針 (権兵衛)
 - 日曜日 帰省土産に 花が咲く (老カラス)
 - 啓明の 廊下にひとつの 塵も無く (綺麗好き)
 - 玉金の 峠に集い 啓明歌 (玉金山)

また、実社会に出て後、仕事柄北海道から沖繩迄、また海外も数回行ききました。が、国民性・地域性を越えて、ひとつになることができた。これも、寮で和をもって誠実に生きる事の大切さを学んだ結果だと思えます。

くり返しになりますが、寮生活において、私は、規律を守ること、また互いに思いやる心の大切さを学びました。それは「貴翁和以」という私の座右の銘となり、上述のように、その後の私の学生生活・社会生活、現在にいたるまでの指針となっています。

今はもうその姿を見る事はできませんが、「啓明寮」は私たちの心の中でいつまでも生き続けることと思

また、最後にになりましたが、この素晴らしい機会を頂きました「関東あまたか会」の関係者各位に、衷心より感謝申し上げますとともに、本会の益々のご発展と会員各位のご健勝をお祈り申し上げます。



尾瀬・武尊(ほたか)高原に魅せられて

永井 敏子 (高十六回生)

日本最大級の高層湿原の尾瀬・武尊高原(群馬県北部・片品村)で田舎暮らしをはじめた15年がたちました。

尾瀬はご存知のように、みずばしょからはじまって、秋のりんどうまで、花の最盛期には、50種類近くの高山植物の花々を楽しむことができる花の楽園です。

また、私が住まいとしている、武尊高原は日本百名山のひとつの武尊山を中心に、白樺の森やブナの原生林、高山植物が楽しめる湿原が点在し、冬はスキー、スノーボード、歩くスキー、スノーシューなどのウインタースポーツで賑わうリゾートです。そんな尾瀬・武尊の魅力にとりつかれて、ちいさなペンションをオープンして田舎暮らしを始めたのですが、本音は「夫の道楽につきあわされて、こんな所にきてしまった」という所での生活か。それでも、住めば都、自然がおりなす四季折々の情景は何年たっても新鮮で飽きることがありません。そして、ここは奥日光の中禅寺湖や戦場ヶ原、奥利根の照葉峡や谷川岳等へも近く、この所、天草など遠来のお客様をご案内して過ごす日も多くなりました。

私の中の天草高校

中嶋昌加洲 (高十七回生)



「わたしやもとは済々餐でしてな!」健康上の理由で当時の天中に転校された井上先輩の有名な一言です。かく言う私も父親の転勤により、高2の3学期に天高に転校してきました。32キロマラソンの洗礼を受け、学業では担任の武田恵文先生(英語)や中田熊太郎(世界史・長嶋敏(地理)・野口虎八(地学)先生方に大変お世話になりました。ただ在校期間が短く、又親父の再度の転勤で本渡を離れた事もあり、その後の私の母校に対する愛着は聊か希薄でありました。

四十歳を過ぎた頃同窓会の案内状をいただき暇だつたことも手伝って「明治大学習記念会館」に足を運んだのだが私が変わる転機となりました。会場では西会長(当時)はじめ諸先輩方が

温かく迎えて下さり、戸惑いと面映ゆさの中でうる覚えの校歌を歌った事でした。その後先輩方との交流が始まり住居が近かった十五回生山本忠義先輩や同級の口元博君とは三日と置かぬ付き合ひが続きました。「そう言えば私は天高の卒業生だった」と言う情けの薄い思いが総会や旅行会参加を重ねる度に「俺は天高卒でよかった」と言う嬉しさと誇しさに変わってゆきました。素晴らしい先輩方、同級生とのふれあいの中で短く在校期間中に得られなかった同窓の絆、堂々たる百年を越える良き校風を少しは受け継ぐ事ができたように思います。

今回幹事長職をお引き受けする事となり、山田会長と共に天中、天高の良き伝統、校風を大事にしつつ、温かく明るい同窓生の輪(和)を広げてゆきたく思います。若輩且つ経験浅い者ゆえ、諸先輩、同級の皆様のご指導・ご協力を心よりお願い申し上げます。

最後にひと言「わたしやちかごろやっとな高に慣れましてな!」

た。微力ながらこのような自然を愛して下さるお客様に快適な旅を楽しんでいただくために身近な自然保護のため活動や30種類以上の有機栽培の野菜やハーブ作りに取り組んでいるこの頃です。

追伸 大塚さんのご依頼で、尾瀬・武尊高原に住む



平成13年農林水産祭 天皇杯受賞

天草良品 **天領** ご進物、おみやげにどうぞ

天草の味わい **松下かまほ二店**

(資)松下蒲鉾店 代表社員 松下 晶一 (高27回生 本渡出身)

〒863-0017 熊本県本渡市船の尾町2-20
TEL(0969)22-2219
FAX(0969)22-2238

株式会社忠建工務店
古井建築事務所

代表取締役 古井 忠治 (御所浦)

〒182-0022 東京都調布市国領町7-16
TEL 0424(87)3780(代)

建築 請負 業
建築の事なら何でも

鉄筋コンクリートマンション
アパート 木造住宅
店舗計画 リホームサービス

会社設立より42年
本人建築経験59年

関東御所浦会相談役
富山進学教室

塾長 **富山 訓全**
(高8回生 御所浦出身)

〒334-0013
埼玉県鳩ヶ谷市南3-11-2
TEL (048)281-1380
FAX (048)281-1359

「天草のマエストロたち画家10人展」に寄せて

横島 庄司(高三十一回生)

去る3月13日から同月28日まで、本渡市教育委員会主催による芸術文化振興事業の企画展が本渡市民センター展示ホールで開催された。展覧会が無事に成功した事は、今後の天草地方の美術分野に新たな展開として一石投じたとと言えるかもしれない。

その展覧会の出品者の一人として、先輩画家達の中に混じり参加出来た事は心から嬉しく思うと共に、これからの制作に対してさらに励みとなる事も改めて実感するに至った。開催にあたっては、単に出品する側にとどまらず、各作品の展示の段階から参加した。市の担当の方々やお手伝いして下さる一般の方々と共に展覧会の成功を願いつつ、開催時間ギリギリまで準備に追われた次第である。

まず今回の展覧会の出品者が10人という極めて稀なグループ展であった事だ。というのも全員が天草出身若しくは天草在住の作家達の顔ぶれによる構成である。普通、専門的にその道を歩む作家達にしてみれば、そう簡単に出品に賛同するとは限らない。個人それぞれに思う所や方向性があり、なかなか募る事が困難な場合が多いものである。さらさら不思議な事に、出

展作家皆が出品依頼に対して即答している点も見逃せない。それぞれ作家たちの中心に、おそらくこの展覧会に対するある何かの思いがあったのではなからうか。皆、快く受け入れてもらったと言う。私自身もそれに驚いたところがあつた。しかし、それにもまして驚いた事は、一般の方々の声の中にも「天草にこんなにも多くの画家がいたのか!」という反応である。今回はたまたま10人に留まったが、

今後さらに展覧会の企画が進み、出展者の数を把握するとなれば、驚きの数字が出てくる事になるかもしれない。もしそうならば頼もしい限りだ。この背景には、天草という土壌・風土、或いは気質が何らかの影響を与えているのかもわからない。そう考えただけでもワクワクする思いである。次に、展示している時に感じた事が、出品作品の大半が青色系の色彩でまとめ構成され、それらが集まった時の青の印象が忘れられない。

笑いが出てきそうなくらい、または恐ろしい程まで不思議な結果ともいえる状況であった。それぞれの作家には打ち合わせしたテーマがあつた訳でもないし、この展覧会に合わせて制作した訳でもない。全て各自が自由に選出した作品なのである。偶然にも様々な青色系の作品が集まった光景はさすがに驚いたし面白現象であつた。この現象については、おそらく天草の自然環境、及びそこで生まれ育まれた個々の色彩感覚が覗いていたのではないかと。無意識に表出された色なのだろう。偶然にも出品された青色系の作品群には、天草の土着なるものが絵画の表現要素として各作家の感覚の中に必然性を保たせていたに違いない。

天草の気候・風土には「青」と言う象徴性が必要なのかもしれない。最後に一言。「しかし、あの柱さえ無ければ...」

「軽井沢」から

木原純一郎(高十四回生)



今年に入り、以前からの仲間である知人より、「すぐ会えないか」との電話があり、翌日、会うことになった。「軽井沢におもちゃの博物館をつくることになった。その副館長に就任してもらえないか」と言つたのも

「おもちゃの博物館かあ。」「軽井沢かあ」と思いを巡らし、翌日には「了解」の返事。家人も面白い。ワクワクしますね。このことで、もう、気分は軽井沢へ。どうにも農耕民族的発想でなく、騎馬民族的な血が流れているのではないのか……?

この博物館は「ワールドトイミュージアム」といい、ロンドンにあつた博物館が丸ごと軽井沢に移つたようなものである。19世紀後半から20世紀前半の価値ある「貴族社会のおもちゃ達」が作り手と遊び手の間にあつたことを感じさせてくれる逸品ぞろい。「子供と大きなコドモの、おもちゃ箱」をキャッチフレーズに4月28日に開館。多くの来館者から素晴らしいモノをみせてもらったと声をいただいている。おもちゃは子供を大人に育て、大人を子供にするという言葉通り、100年前のおもちゃと出会つた子供も大人も、その顔は優しく、夢の一刻にひたる。

昭和37年9月、有明町の大楠(大浦・楠重・須子・赤崎の3中学校を統合し、有明東中学校が誕生、その後40年の歳月が流れ、この平成16年3月にその歴史に幕を閉じました。その折発行された記念誌「永遠」が5冊ほど手元にあります。欲しい方に差し上げますので一報ください。(この締めくくりをされた益田校長先生は、天高20回生です。連絡先 橋川順一(高20回生) 楽しみの一つとしている。

平成16年3月31日。長野県人となり、又「軽井沢町民」となった。例えば18歳までの天草での生活を皮切りに、大阪・高槻・京都・滋賀・東京と生活の場を移しながら61を迎えた。「人は、テレビのチャンネルと同じで、次々に変えたほうが面白い!」の気持ちで生活の場面も変わり、とうとう、軽井沢の生活が始まつた次第。(こんな小生にお付き合ひをしてくれる人も大変だろうな……と思いつつも、感謝しています。)

「おもちやの博物館かあ。」「軽井沢かあ」と思いを巡らし、翌日には「了解」の返事。家人も面白い。ワクワクしますね。このことで、もう、気分は軽井沢へ。どうにも農耕民族的発想でなく、騎馬民族的な血が流れているのではないのか……?

この博物館は「ワールドトイミュージアム」といい、ロンドンにあつた博物館が丸ごと軽井沢に移つたようなものである。19世紀後半から20世紀前半の価値ある「貴族社会のおもちゃ達」が作り手と遊び手の間にあつたことを感じさせてくれる逸品ぞろい。「子供と大きなコドモの、おもちゃ箱」をキャッチフレーズに4月28日に開館。多くの来館者から素晴らしいモノをみせてもらったと声をいただいている。おもちゃは子供を大人に育て、大人を子供にするという言葉通り、100年前のおもちゃと出会つた子供も大人も、その顔は優しく、夢の一刻にひたる。

昭和37年9月、有明町の大楠(大浦・楠重・須子・赤崎の3中学校を統合し、有明東中学校が誕生、その後40年の歳月が流れ、この平成16年3月にその歴史に幕を閉じました。その折発行された記念誌「永遠」が5冊ほど手元にあります。欲しい方に差し上げますので一報ください。(この締めくくりをされた益田校長先生は、天高20回生です。連絡先 橋川順一(高20回生) 楽しみの一つとしている。

昭和37年9月、有明町の大楠(大浦・楠重・須子・赤崎の3中学校を統合し、有明東中学校が誕生、その後40年の歳月が流れ、この平成16年3月にその歴史に幕を閉じました。その折発行された記念誌「永遠」が5冊ほど手元にあります。欲しい方に差し上げますので一報ください。(この締めくくりをされた益田校長先生は、天高20回生です。連絡先 橋川順一(高20回生) 楽しみの一つとしている。

昭和37年9月、有明町の大楠(大浦・楠重・須子・赤崎の3中学校を統合し、有明東中学校が誕生、その後40年の歳月が流れ、この平成16年3月にその歴史に幕を閉じました。その折発行された記念誌「永遠」が5冊ほど手元にあります。欲しい方に差し上げますので一報ください。(この締めくくりをされた益田校長先生は、天高20回生です。連絡先 橋川順一(高20回生) 楽しみの一つとしている。

「有明東中学校の閉校記念誌」を差し上げます

昭和37年9月、有明町の大楠(大浦・楠重・須子・赤崎の3中学校を統合し、有明東中学校が誕生、その後40年の歳月が流れ、この平成16年3月にその歴史に幕を閉じました。その折発行された記念誌「永遠」が5冊ほど手元にあります。欲しい方に差し上げますので一報ください。(この締めくくりをされた益田校長先生は、天高20回生です。連絡先 橋川順一(高20回生) 楽しみの一つとしている。

シルバー人材センター 酒井 孝幸(高五回生)

各市町村にシルバー人材センターが設置されており私も推進委員として参加している。これは離職後の高齢者(60才以上)を対象に健康保持と社会参加を目的としており、仕事の内容は現役時代のキャリアを生かせるもの他一般には公園や道路の清掃整理や観光ガイド、駐輪場管理など日当たり三〜六時間、月間十日間、働くしくみになっており、色々の人達との交流も楽しみの一つとしている。



<p>ディスプレイ製造・卸 オオツカSPI工業(株)</p> <p>代表取締役 大塚 優 (高12回生 本渡出身)</p> <p>〒340-0806 八潮市伊草377-9-403 TEL 0489-98-7921</p>	<p>パーム柔道畳“ともえ”講道館指定工場 (株)郁栄商会</p> <p>代表取締役 柳田 格 (高12回生 本渡出身)</p> <p>〒130-0005 墨田区東駒形1-4-10 TEL 03-3622-2836</p>	<p>税理士 山本 清 (高13回生 五和町鬼池出身)</p> <p>税務及会計の指導、相談、申告、代理</p> <p>自宅/〒168-0073 東京都杉並区下高井戸4-26-7 TEL 03-3303-1395</p> <p>事務所/〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-24-7-1004 TEL 03-3668-1901 FAX 03-3668-3885</p>
--	---	--

『どぎやしらすとのおの一本の電話から』

木原健一郎(高七回生)



「ようだらしかあ なん でんかんでん孫のせい」(莊一郎 六回生)

「こん頃は、トボケとボケがごっちゃませ」。

「日んが毎日 忙しかあで 日が暮れて」(理一郎 十二回生)

「こん頃は 欲より得よ 寝るが先」(純一郎 十四回生)

「同じ兄弟でも、それぞれが目先の雑務が先なのか、ともすれば半年以上も(音



還暦を境に

西田 勝年(高十二回生)

まだ体力ある。ヨシ!! 海外的フルマソンを走って

「ソウルでもポランテイアの人が随所になつていて、ランナーにファインティン

「ソウルでもポランテイアの人が随所になつていて、ランナーにファインティン

「ソウルでもポランテイアの人が随所になつていて、ランナーにファインティン

「うったまげた せせて入つたら 女風呂」(浩一郎 八回生)

「東京? 横浜?」とか、話しかけてくるランナーもお

「東京? 横浜?」とか、話しかけてくるランナーもお

「東京? 横浜?」とか、話しかけてくるランナーもお

「吉日」で、疎遠になつてい

「吉日」で、疎遠になつてい

同・級・会

同級会に必ず持つてきてく

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

「どぎやしらすとのおの一本の電話から」

エヌエスユニ株式会社 代表取締役 山下 用三郎 (高9回生 本渡出身)

●診療受付時間 午前9時~12時・午後2時~4時 ●休診日 日曜・祝祭日(木曜日午後・土曜日午後)

株式会社 竹森工業 代表取締役 竹森 要 (大江出身)

事務局便り

平成16年度1月から6月までの年会費納入者は、次の324名です。不景気の中、またご出費多端の折柄、誠に恐縮ですが、同封振替用紙にて是非お返込み戴きますようお願い致します。編集日メ等で、記載漏れがありましたら、お詫び致します。

尚、住居転入、転出の方また、ご存知の方ありましたら、ご面倒ですが、事務局までご連絡下さい。

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台2838-201
TEL/FAX 042-748-5553 E-mail: mori3@nifty.com
事務局 森 廣司

●16年度納入者一覧(敬称略)●

天中	天高2	岩崎 八男	西田九仁夫	中嶋 正毅	松本 紀子	宮本東志美
井上 正規	新井ツルミ	江崎 政雄	花里 愛子	中元 令士	森下 紀子	山口 涼子
野平 秀達	石原 俊彦	大田貴和子	濱 了二	橋本 和代	野村 昌照	天高21
川原大三郎	米田 寛人	小川 矩正	福田 稔	平下 壽	天高12	原田 直豊
下門 祥人	栗山 武子	川口 保男	松下一哉	藤枝 純子	鮎田 賢一	前田非登美
新納 徳男	川崎 君男	菊池美代子	道田 俊久	益田幸三郎	池田 正孝	森 健志
田中 理一	近藤 雄枝	木田 研一	光崎 親一	松崎 武久	井上美都八	山本 忠義
村上有志昭	留 留	佐々木猛二	南 賢一	松田 修身	大塚 優	金子永靖子
赤城 正	津留 俊彦	倉田 剛	宗村 賢	山下用三郎	金子なほみ	浦郷 昌代
大野 俊康	岡岡 昌盛	古城 守一	山下 公輔	山岡 輝夫	佐藤 文彦	天高16
川野 弘能	寺下 玉夫	小林 武市	大和 肇造	吉田 勝	高比良 慎	稲葉由起子
金子 敬男	長尾 幸	酒井 孝幸	大由ヨシ子	吉本 守	西野 博	金子 和生
池田 俊宣	中村 和子	佐々木弘子	天高10	天高10	天高10	坂本 慎子
鈴木 明	原田 敏夫	天高7	天高7	天高7	天高7	高井 孝子
有田 孟之	宮岡 敏夫	天高5	天高5	天高5	天高5	松田美佐子
五島 浅男	森下 一人	竹内 弘崇	天高17	天高17	天高17	天高17
近藤 忠	天高3	天高3	天高3	天高3	天高3	天高3
村上 正衛	奥田 男	鶴岡庄次郎	天高13	天高13	天高13	天高13
森 栄	伊藤 清	西岡 眞一	天高13	天高13	天高13	天高13
猪俣 三郎	上田 敏雄	浜 文男	天高13	天高13	天高13	天高13
川田 禎	小倉 朴子	原田忠四郎	天高13	天高13	天高13	天高13
吉永 貴	梶原 謹輔	三浦 武久	天高13	天高13	天高13	天高13
原田 芳矢	酒井ノブ子	三浦美富江	天高13	天高13	天高13	天高13
吉川 司郎	相良 豊	宮崎 文子	天高13	天高13	天高13	天高13
相良 謙雄	高橋 君子	宮本 恭彦	天高13	天高13	天高13	天高13
田島 國雄	花里日出志	明瀬 博彦	天高13	天高13	天高13	天高13
田中 忍	森田素子	藤 康司	天高13	天高13	天高13	天高13
三浦善四郎	山内 龜典	山崎純一郎	天高13	天高13	天高13	天高13
高女	天高4	天高4	天高4	天高4	天高4	天高4
林 リン子	浦本 武	天高6	天高6	天高6	天高6	天高6
水谷ヨミ	川野辺サツキ	荒木 克也	天高6	天高6	天高6	天高6
松本 雅子	小松千枝子	稲岡 咲子	天高6	天高6	天高6	天高6
岡部由美子	小溝 尚敏	岡村 一成	天高6	天高6	天高6	天高6
注 幸代	小森 友恵	尾下 伸二	天高6	天高6	天高6	天高6
千葉司津子	豊田 悦	小畑 幸保	天高6	天高6	天高6	天高6
分定	橋本カツ子	梶田 恵光	天高9	天高9	天高9	天高9
大庭 初子	廣田 和史	川口 圭子	天高9	天高9	天高9	天高9
天高1	古山 正幸	木原社一郎	天高9	天高9	天高9	天高9
井上 光雄	宮崎 英典	小島庄太郎	天高9	天高9	天高9	天高9
鎌田 裕子	宗村 初恵	高見 逸男	天高9	天高9	天高9	天高9
田中 洋一	山口 康徳	武田 公夫	天高9	天高9	天高9	天高9
鶴田 都雄	山下 景由	鶴田 秀久	天高9	天高9	天高9	天高9
畑田 倫男	天高5	十代田幸子	天高9	天高9	天高9	天高9
宮崎真二郎	池田登彦	中村 琢磨	天高9	天高9	天高9	天高9
村岡 治郎	稲田 博	長沢マズ子	天高9	天高9	天高9	天高9

同窓会



伊藤 博通(高十回生)
去る五月八日(土) 関東地区三三三会(十回生)を、横浜の中華街「廣東飯店」で開催したところ、四十五名の出席を得て盛大な親睦会となりました。

還暦同窓会以来五年ぶりの再会で、中には卒業以来四十六年ぶりの再会もあり、一気に学生時代の思い出や、友人の消息、家族のことに話が弾み、時間のたつのも忘れるひと時でした。



れた方を招待したいと言う、同級生永井君の誘いに甘え、日光・尾瀬へと足を延ばし、日光東照宮、二荒山神社、華厳の滝を見学しました。夜は、永井夫妻が管む「ペンション銀河」で、ご夫妻の心のこもったもてなしを受け、大いに感激したところでした。

天草塩の道

小川 矩正(高五回生)

年配の方なら憶えておいでだろうが、太平洋戦争末期の昭和二十年前後、食用塩が極端に不足する状況となつて、天草の海べりの村々では海岸近くに自家製塩場を作り、海水を汲んで大釜に入れ、薪を焚いて朝から晩まで長時間掛けて水分を

蒸発させて少量の塩を作つていたことがあった。その後海外からの輸入岩塩を使い溶解濾過した食塩が普及したが三十年前頃から食塩の主流が精製塩になつて以来日本人は慢性的にミネラル不足になっていると言ふ。

本渡市志柿でホテル河丁を営む川上昭和氏(高十二)は少年時代体験した塩水の治療効果を知り、二十三年前民宿を開く時すぐ塩湯に取り入れ塩の効能に拘わつて来た。その後、塩造りの人の普及に乗りだしたのである。倉岳町棚底でヒラメ養殖場の跡地を利用して海

ホテル 河丁
プライダルホール
代表取締役 川上昭和 (高12回生 大江出身)
TEL 0969-23-7261
熊本県本渡市志柿町7102

今年も六月六日(日)百三十六名の参加のもと、十五市町出身者によるゴルフ対抗戦が「山武グリーンカントリー倶楽部」に於いて行われました。

第五回天草十五市町ゴルフ対抗戦
(天草郷友会主催 毎年六月六日)
長谷場亮祐(高十一回生)

緑による文化の創造
国土緑化株式会社
代表取締役 堺 亜流 (龍ヶ岳出身)
【本社】〒133-0044 東京都江戸川区本一色2-12-12
TEL・03-3674-2611 FAX・03-3674-5995
http://www.kokudoryokuka.co.jp

還暦同窓会

松尾 弘美(高十五回生)

私共、十五会(天高第十
五回、三八年卒)は前回(関
西・京都 から数えて三年
目の今年、平成十六年十月
十六日(予定)、郷里 本
渡市於て還暦同窓会開催の
予定。地元で多忙の中を準
備中の友人達!!

かつて同じ時間、同じ空
気を共有した仲間が席を同
じにして若き青春を語り合
い、近況報告又、健康(小
康状態でも)再会できた喜
びを分かち合いに、関東地

区同期会、お互いに声をか
けあって「還暦同期会」へ
出かけましょう。

日時 平成十六年十月十六
日(土) 十八時

場所 天草国際ホテル ア
レグリア



関東辰巳会に参加して
藤野 清子(高十一回生)

「久しぶり」と
「どきやんと」と
こんな言葉で始まる関東
辰巳会。(十一卒・長谷場
幹事)

もう今年で四回目の箱根
が五月十五日(十六日)に十
七名の参加者で開催されま
した。

私が始めて参加したのは、
たまたま熊本から孫に会い
に上京していた時、厚かま
しく参加させてもらいまし
た。皆が童心にかえって、
わめき合い、懐かしさを味
わって以来、それからは関

イタリア公演に参加して

阿部 優子(高十七回生)

五月三日から七泊八日の
日程で「コロ・ソフィア」合
唱団はバレストリーナ音楽
財団の招聘を受けて一九九
六年に次いで二度目となる
イタリア公演を行いました。

「コロ・ソフィア」は合
唱曲の分野で数多くの名曲
を世に送り出した高田三郎
作品の精神と芸術性に共鳴
する人々とともに結成した
約六十人の混声合唱団です。

今回は組曲「水のいのち」
をイタリア語でローマの地
元合唱団と合同演奏を行い、
パチカンのサン・ピエトロ
大聖堂での「主日ミサ」で
聖歌隊として演奏を行うと
いう目的でした。

公演は、ローマの東三十三
キロにあり、「教会音楽の
父」と呼ばれるバレストリ
ーナの故郷であるバレスト



そして最後の九日にパチ
カンのサン・ピエトロ大聖
堂でのミサ、この日は日曜
日で、「主日のミサ」で高

リーナカテドラルからスタ
ートしました。初日の六日
は現地の通常ミサで、私達
合唱団員も会衆席に座り、
日本語による歌唱ミサを行
い、ミサ曲は、日本の伝統
音楽を素材とした「やまと
のささげうた」を歌いまし
た。一日おいた八日、ロー
マの合唱団「コロ・シア
エ」とのジョイントコンサ
ート、前半はバレストリー
ナモテット、後半にイタリ
ア語による「水のいのち」
というプログラムでした。

その間七日にはローマのア
メリカン教会で「コロ・
シアエ」とのジョイントコ
ンサートを行いました。

田三郎の日本語による典礼
聖歌を聖歌隊としてつとめ
ました。ミサの場合、演奏
が終わっても拍手はないの
ですが、ものめずらしさも
手伝ったのか、参列者や観
光客の人々から拍手が沸き
起こり、聖堂内の神聖な雰
囲気に自ら感動すると共に、
言葉が通じなくても作品の
本質は伝える事が出来たの
かな等と感じたひとときで
した。強行日程で、観光気
分は味わえませんでした。

東辰巳会に合わせて上京、
四回とも参加させてもら
いました(皆勤賞)。

おいしい料理を戴き、大
いに飲み、大いに語って夜
のふけるのも忘れ、みんな
学生時代に戻った様な一時
を過すことが出来ました。

最後は校歌を歌って、来年
の再会を約束して、それぞ
れの帰路につきました。

毎年開催されている、関東
辰巳会がますます発展し、
より多くの参加者が増えま
すよう、初めての方の参加
者を待っています。

中京支部総会に出席して

山田 清(高十二回生)

平成十六年六月六日(日)
曜日)名古屋市内のガデー
ンプレスホテルに於いて午
前十一時より天草高等学校
同窓会が開催されました。
講演は坂瀬川川出身で元天高
の英語教師であった田尻洋
保氏(高十二回生) 演題は
「心につながるふるさと
あ、くりしようべに会おご
たる」で天草弁、天草の方
言を入れて熱くかたられまし
た。田尻氏の小学校、中学
校、高校の同級生が関東、
関西、四国より応援に参加
され友人の絆の深さを改め
て感じました。親睦会では
天草弁での寸劇、いわしの



かけていました。

ある時、家内が「私も山
を歩いてみたい」と言うの
で、金時山へ足柄峠の方か
ら登ったのですが、最後の
三十分の急登になったらも
う大変、吐いて歩けないし、
顔色も真っ青、私も妻の体
力の無さにびっくりしまし
ました。因みに家内は十六
回生、私は十三回生です。

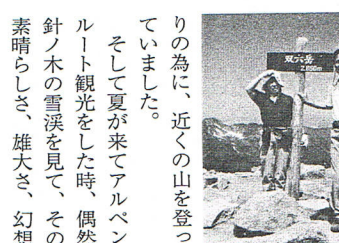
きんぐ楽々

佐々木 顕一(高十三回生)

あまたか会の皆さんこん
には、この度は家内の方
に、会報に載せる原稿を書
いてくれないかとの話が
あったのですが、私が書か
される羽目になってしま
いました。因みに家内は十六
回生、私は十三回生です。

昨今は健康志向が言われ
る時代のせい、大変な登
山ブームであります。私共
夫婦もいつの頃からか、あ
つちこつちの山に登るよう
になりましたが、其れには
幾つかのきっかけがあった
ように思います。

私共は長く丹沢の山、箱
根の山、時には沢登りと出



りの為に、近くの山に登っ
ていました。

そして夏が来てアルペン
ルート観光をした時、偶然
針ノ木の雪渓を見て、その
素晴らしさ、雄大さ、幻想
的なの驚き、いつかこう
いう所を歩きたいと夫婦し
て思ったのでした。

それから近頃は近くの山で足
を鍛えて、夏はアルプスへ
出かける繰り返しで、それ
は楽しくも又きつくもある
ものでした。

編集ノート

本年は全役員の交替があ
り広報部も新しい顔触れで
スタートすることになった
が、編集に未経験者が多く、
苦勞しながらも広報委員
の地道な努力と先輩方の適
切なアドバイスを戴きどう
にかまとめることができました。
関係諸氏にお礼申し
上げます。

平成16年11月35周年を迎えます

天草の味・酒処
有限会社 いかりや

鶴岡 幸枝
しをり
(御所浦町出身)

新宿店 東京都新宿区百人町1-5-6 白萩ビル1階
電話 03(3209)3550番

予約 東京都新宿区大久保2-33-37-203
電話 03(5272)8825番
FAX 03(3719)0654番

「クラブ 中原」

中原 榮子 (牛深市出身)

有限会社 エス・アンド・エス
〒107-0052 東京都港区赤坂4-2-3 ディアシティ赤坂一ツ木館B1
電話 (03) 3585-7739

「クラブ 赤石」

赤石 洋子
(本渡)

〒104-0061 東京都中央区銀座8-8-7
銀座第三ソフッドビル5階
電話 03-3573-3994